

宮城大学 後援会報

Vol.66

発行日
令和8年2月27日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編集
宮城大学後援会事務局

学びの場

第2回MYUアイデアコンテスト

「でるコン2025」

最終プレゼンと審査結果

宮城大学では、学生による第2回MYUアイデアコンテスト「でるコン2025」の最終審査を10月29日(水)に開催しました。本コンテストは、本学の実学志向の教育理念のもと、学生が社会課題の解決に向けたアイデアをビジネスプランとして構想し、発信する機会として昨年度より実施しているものです。2回目となる今年度は、看護学群から初めての出場者もあり、学群を越えた連携による提案が見られるなど、より多様性に富んだ大会となりました。

今年度は、ふわっと部門7件、ごりつと部門14件の計21件の応募があり、一次審査を通過したふわっと部門3件、ごりつと部門5件の計8組が最終審査に臨みました。

最終審査では、協定校である県立広島大学の森永学長をはじめ、民間企業関係者2名、県関係者1名の計4名の有識者を審査員として迎え、学生のプレゼンテーションに対して多くの質問や助言が寄せられるなど、活発な議論が行われました。その結果、受賞者が決定し、受賞者にはビジネスプラン実現に向けた活動費が授与されました。

最優秀賞は、ふわっと部門では「WAVE MARCH〜心電図測定スポットの導入〜」(カネケンケンゼミ)、ごりつと部門では「PLAYCY(プレイシー)」(菅原 新流さん)が受賞しました。「WAVE MARCH」は、大学内や地域で心電図を気軽に測定で

きる環境を整え、健康意識の向上と人とのつながりを生み出すことを目指した提案です。看護学群と事業構想学群研究科の学生が連携し、「わくわくしながら心電図に関われる仕組み」をモットーに、心電図を学群や世代を超えた交流の架け橋とする発想が高く評価されました。看護学群から初の出場となった本チームは、専門的な看護の知識を地域や日常生活にどう生かすかを形で示した点でも意義深い取組となりました。活動費は、宮城大学大和キャンパスや太白キャンパス、さらに地域イベント等での心電計を用いた実践的な取組に活用し、多世代が心電図に触れながら学び合える場づくりを進めていく予定です。「PLAYCY」は、地域クラブに特化したプラットフォームとして、指導員登録やノウハウ共有を通じて地域スポーツを支える構想です。菅原さんは、過去のプレゼンでの挫折経験を原点到、「思いや価値を伝える力」を磨きながら事業を構想してきました。特に、教育分野における収益化の難しさに向き合い、発信と参加を軸としたビジネスモデルを検討し続けてきた点が評価されました。活動費は、富谷市をフィールドとした事業検証に活用される予定です。

第2回目となる今回の開催を通じて、学生の課題発見力、発想力、そして社会に向けて発信する力の高さがあらためて示されました。本学では今後も本コンテストを継続し、学生の挑戦と社会実装に向けた取組を後押ししていきます。来年度も多くの応募をお待ちしています。

コンテスト事務局 学生支援課



記事一覧

- 2面 ● 大和キャンパス大学祭の報告
- 3面 ● 太白キャンパス大学祭の報告
- 4面 ● サークル活動(写真サークルFLASH・ダーツサークル)
- 5面 ● キャリア開発支援/スチューデントサービスセンター便り

- 6面 ● コラム/絆
- 7面 ● スポーツで輝いている学生/後援会からの報告
- 8面 ● お知らせ(後援会・大学)/キャンパスカレンダー/お問い合わせ先

2025.10.12(Sun)、13(Mon)

宮城大学大和キャンパス大学祭

大和キャンパス大学祭実行委員長
事業構想学群事業プランニング学類2年 小原 和夏

令和7年10月12日・13日の2日間にわたり、宮城大学大和キャンパスにて大学祭を開催いたしました。はじめに、本大学祭の開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました協賛企業の皆様、大学関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



令和7年度の大学祭は、2日間とも雨天での開催となりました。準備日から天候に悩まされ、当初の計画通りに進まない場面も多くありましたが、実行委員一人ひとりが状況に応じて判断し、臨機応変に対応することで、無事に大学祭を実施することができました。

屋外企画に制限がある中でも、屋外では多くの模擬店が出店し、会場は大いに賑わいました。ハンバーガー屋さんをはじめ、3店舗が競い合う油そば屋さん、トルネードポテトや肉巻きおにぎりなど、どの店舗も魅力的で、多くのお客様に大学祭を楽しんでいただくことができました。

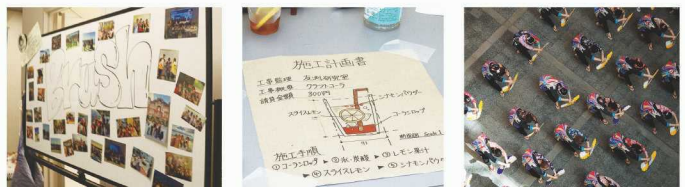


また、ゲストとしてお迎えした芸人の

ゴー☆ジャスさんによるステージは、300人ほどのお客様にご来場いただき、会場が笑いに包まれる大盛り上がりとなりました。屋内企画では、本格的なプラネタリウムやお化け屋敷、可愛いタトゥーシールや縁日など、天候に左右されず楽しめる企画が充実し、幅広い年代の方々にお楽しみいただくことができました。

そして大学祭の最後には、天候の回復に恵まれ、屋外で皆さんと一緒に花火を見ることができました。困難の多かった準備期間を乗り越えたからこそ、花火を見ながら泣いている実行委員の学生もあり、達成感と喜びでいっぱいでした。

実行委員の皆が最後まで力を尽くしてくれたおかげで、大きな事故もなく、来場者にとっても、実行委員にとっても楽しい大学祭にすることができました。幹部陣をはじめ、すべての実行委員の皆、そして事務局の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。今回の反省点をしっかりと令和8年度へ引き継ぎ、より地域の皆様に親しまれる大学祭を目指してまいります。大和キャンパス大学祭がさらに良い形で続いていくことを願い、結びとさせていただきます。



写真提供: 大学祭実行委員会・写真サークル FLASH・大学広報・後援会事務局

2025.11.2(Sun)、3(Mon)

宮城大学太白キャンパス大学祭

太白キャンパス大学祭実行委員長
食産業学群生物生産学類 2年 石川 陽菜

令和7年度の宮城大学太白キャンパス大学祭は11月2日・3日の2日間に渡り開催いたしました。両日ともに天候に恵まれ、多くの地域住民の方々やご家族連れにご来場いただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。この場をお借りして、開催にあたり多大なるご支援を賜りました後援会及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



パンフレット

太白キャンパスは「Hungry Campus! ～旬をガブッ！育ちもバグッ！～」をテーマに掲げました。食材の旬、人生の旬、学びの旬。今しか味わえない“瞬間”を全力で楽しもうという強い想いを持ち、「おいしいことにワクワクする気持ち」や「もっと学びたい、成長したい」という前向きなハングリー精神を大学祭という最高の舞台で表現することを目指しました。研究棟からサークル棟にかけて室内は鮮やかな装飾で彩られ、昨年度を超える26店舗の模擬店が並びました。研究室のメンバーや友人同士のグループなどが出店し、様々な食品が提供され、まさに食産業ならではの活気に満ちていました。イベントを行っていたメモリアルホールでは、各サーク

ルのパフォーマンスやカラオケ大会、「エレガント人生」さんによるお笑いライブなどで会場は大いに盛り上がりました。初日には「ホームカミングデー」も開催され、7期の卒業生による講演「食産業学部で学んだこと、そして今」を聴講することもできました。そして、今回は「地域の方々を楽しみやすい大学祭」を目指し、新たな試みに挑戦しました。宮城大学の卒業生が生産した農産物や加工食品の販売は、多くのお客様に喜ばれ、完売が相次ぎました。また、テーマに沿ったペーパーフラワー製作体験を行うことで家族で楽しめる工夫を凝らし、人来田小学校・人来田中学校によるブラスバンド演奏会の公演などによって、地域に開かれたキャンパスとしての魅力を再確認する機会となりました。

実行委員たちは、この2日間のために約1年前から準備を重ねてきました。目に見えない裏方の仕事から、渉外活動、企画立案まで、それぞれの役割は違えど「大学祭を成功させたい」という1つの思いがこの大きな成果に繋がりました。この経験を通じて得た学びや達成感、学生にとって一生の思い出となり、誇りに繋がるはずで、来年度は今年度を超える素晴らしい大学祭を目指し、一同さらなる努力を続けてまいります。今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



サークル活動

写真を通して広がるFLASHの活動と交流

写真サークル FLASH 代表
看護学群2年 小林 鈴菜

写真サークルFLASHでは、サークル内での撮影会に加え、青葉まつりや学祭などの行事、また大学内外から依頼を受けたイベントの撮影を行っています。これらの撮影では、各メンバーがそれぞれ異なる機材を使用しており、スマートフォンのカメラ機能を活用する学生もいれば、持参したデジタルカメラや一眼レフカメラを使用する学生もいます。

FLASHでは、後援会の助成金を活用させていただき、一眼レフカメラやチェキカメラを購入することができました。一眼レフカメラでの撮影に興味はあるものの、個人で購入するにはハードルが高いと感じている学生にとって、サークル活動を通して実際にカメラに触れ、撮影の楽しさを体験できることは大きな意義があります。

特に青葉まつりのように被写体に動きがあり、距離もある場面では、瞬間を切り取るのが難しいことがあります。そのような状況においても、一眼レフカメラを使用することで、踊り手の笑顔あふれるエネルギッシュな瞬間を写真として残すことができます。一眼レフカメラをサークルとして活用できる



新入生歓迎会でのフォトコンテスト



2025大学祭花火

ようになったことで、メンバーの撮影意欲も向上し、青葉まつりに限らず、日常生活の中でも積極的に撮影を行うようになっていきます。

令和7年度は、新入生歓迎会を兼ねてサークル内写真コンテストを実施しました。「春」をテーマに作品を募集した結果、それぞれが異なる視点で捉えた、多様で個性豊かな写真が集まりました。写真は単なる記録ではなく、撮影者一人ひとりの思い出が詰まったものであることを改めて実感しました。

また、その思い出を写真を通して共有し合える空間は非常に貴重であり、写真サークルの存在意義はここにあると感じています。

現在は、イベント撮影に加え、年に4回ほど「撮影会」と称して観光地などに出向き、撮影活動を行っています。今後も、大学生活をより充実したものにする一助となるような活動を継続していきたいと考えています。



青葉まつりで笑顔あふれる踊り手

設立。そしてダーツと未来へ。

ダーツサークル 代表
食産業学群生物生産学類3年 太田 一颯

私たちダーツサークルは令和6年11月に設立されたばかりの団体です。元々は令和6年の大学祭実行会のメンバーを中心とした活動でしたが、大学祭の一時の息抜きとしてではなく、ダーツを純粋に楽しみ、メンバーが過ごしやすい場所を作り上げたいという思いから、サークルとして独立しました。ダーツには「夜の遊び、飲酒や喫煙」といったネガティブなイメージが持たれがちです。しかし私たちは、サークルとしては飲酒の場を設けないなど、スポーツとして健全に活動することを心がけています。現在は1、2年生を中心に3年生まで、学類や性別を問わず多様なメンバーが在籍しており、10名以上の新入生を迎えて活気あふれる大所帯となりました。真剣に技術向上を目指す者から、日々の交流を楽しむ者まで様々ですが、ダーツ以外にもトランプで遊んだり、学業の課題を教え合ったりと、学年を超えた交流があるのは私たちの自慢です。

一方、サークルの立ち上げには苦労もありました。ダーツボード等の設備は高額なものも多く、限られた予算でそろえていくことには難しさもありました。そのような中、後援会よりダーツボードの助成をいただけたことは、私たちにとって大きな支えとなりました。この場をお借りして厚く御礼申し



1スローでの最高得点 180点達成

上げます。また、大学祭では予算の中でやりくりするためにダーツスタンドを自作しました。当日は大和キャンパスの学生も訪れ、距離の壁を越えた貴重な交流の機会となりました。現在は、このサークルを一時的な集まりではなく、人によらず長く続く組織にするため、ルール of 明文化を進めています。会計の透明化や物品購入時の多数決制度、清掃担当の明確化など、全員が納得感を持って運営に関われる仕組みを整えています。現在は1年生にも少しずつ運営を担ってもらい、次世代への継承を準備しているところです。代表の私としては、今後も後輩たちがこのダーツサークルの良いところを引き継ぎ、メンバーにとって居心地の良い場所であり続けることを願っています。今後とも、私たちの活動を温かく見守っていただければ幸いです。



サークル室で練習中



キャリア開発支援

本学キャリア・インターンシップセンターでは、キャリア教育や就職支援を通じて、高度な実学に基づく豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会や日本経済の発展に貢献できる人材の育成を図っています。

各キャンパスには「キャリア開発室」を設置しており、企業の求人や就職に関するイベントの開催情報を収集し、メールや学内サイトを通じて学生に周知しているほか、企業と連携して学内説明会を実施するなど、学生のキャリア形成に向けた活動を後押ししています。また、同室には進路指導員がおり、進路相談やエントリーシートの添削、採用試験の面接練習など、学生一人ひとりの適性や希望に応じたきめ細やかなサポートを実施しています。ご利用・ご相談を希望される場合は、学内サイトの専用フォームから気軽に予約申込みが可能ですので、学生の皆様には積極的にご利用いただきたいと考えています。



さて、今年度も後援会の皆様のご支援により、様々な取組を実施いたしました。看護学群では国家試験合格に向けた対策講座を開催しています。事業構想学群ではエントリーシート作成支援講座を開催し、自己理解の深め方や自己PRのコツを学びながら、作成したエントリーシートの添削を受けました。食産業学群では自分の興味・価値観・志向を分析する自己分析・適職発見プログラムを受験しました。

また、全学生対象の学内イベントとして、12月3日（水）大和キャンパス体育館において「合同業界

研究セミナー」を

開催しました。午

前・午後の2部入

替制で、計83社の

企業・団体に出展

いただき、各ブー

スにおいて35分の

説明会を4回実施

しました。学生約

150名が参加

し、興味・関心の

あるブースを自由

に回って、各企業・

団体の業務内容や

仕事のやりがい等

を直接聞くことが

できました。本学

の卒業生が説明役を担うブースもあり、在学時の過

ごし方など先輩からのアドバイスが行われている

ブースもありました。

参加した学生からは「色々な会社について知るこ

とができ、貴重な機会だった」「卒業生の方とたく

さん話せて良かった」「質疑応答など直接的なやり

取りができて良かった」といった声が寄せられました。

企業・団体の方々からは「真摯に就活に取り組

んでいる」「説明を真剣に聞いてくれて誠実な印象

を受けた」「コミュニケーション力が高い方が多かつ

た」といった評価をいただいております。

後援会の皆様の温かいご支援に改めて感謝申し上げますとともに、学生の満足度の高い進路実現のため、今後ともキャリア開発支援の拡充と質の向上に努めてまいりますので、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。



学生支援課 キャリア開発グループ

スチューデントサービスセンター便り

学生たちのところとからだの健康をサポートしています -健康支援室-

本学には、学生の心身の健康を維持・支援する組織として「健康支援室」が設置されています。保健室や学生相談室、そして日々学生と接している各学群の教職員が連携し、けがや病気、悩み事や相談事に対して、学生一人ひとりに丁寧な対応を心がけています。

保健室では、学生の身体的健康を中心に、突発的な体調不良やけがへの応急処置はもちろん、健康診断の結果に基づくフォローアップも行っています。また、新型コロナウイルス感染症や百日咳などの学校感染症についても注意喚起を行い、近年感染拡大には至っていません。さらに、学生から申告のあった持病やアレルギーを事前に把握し、必要な備えをしています。ご心配な場合は学生を通じて保健室にご相談ください。

学生相談室では、両キャンパスのカウンセラーが、学生が気軽に訪れることができる雰囲気づくりを目指し、様々な相談が持ち込まれています。例えば進路に関する相談では、卒業後の進路のみならず、在学中の学類やコース選択、ゼミ配属など、選択を迫られる場面で迷う学生も多くいます。また、課題やレポートのペースについていけないと感じていたり、先生や友人との関係に悩んでいたりする学生もいます。さらに、ご家族が思い描く自分の姿と現在の自分とのギャップに悩み、言い出せずにストレスを感じているケースもあるようです。

学生たちは成人であるため、私たちが彼らを大人として扱います。困難に直面した際には、自ら判断し行動を起こし、然るべき場所に助けを求めるよう促していますが、なかなか一歩を踏み出せないこともあるようです。ご子息・ご息女が大学生となり、家族で過ごす時間が減っているかもしれませんが、機会があれば、お互いスマートフォンを置いて、大学での様子について対話してみてください。

スチューデントサービスセンター長 兼 健康支援室長 平岡 善浩

この記事は前号に掲載した内容を抜粋して紹介しています。

4月から本学に入学をされる学生のご家族の方にもお読みいただきたい記事となっております。(後援会事務局)

私の研究室

豊かな日常を創造していく

ともぶち たかゆき
事業構想学群 助教 友瀨 貴之

私の専門分野は、「農村計画」「地域計画」「建築設計」になります。

生まれも育ちも関西になるのですが、当時学生の身分ながらも研究室活動の一環で2011年8月より気仙沼市を中心に東北沿岸部を縦断しながら実践と研究に取り組んだことをきっかけに研究者としての道を歩むことを決意しました。

当時の主な取り組みは、震災前の街並みを模型で復元し、街に刻まれてきた人々の記憶を保存していくことで、地域のことを理解する活動（失われた街模型復元プロジェクト）。そして、これまでの地域の営みを理解したうえで新たな地域空間を創造していく活動（気仙沼市唐桑町大沢地区の復興まちづくり、気仙沼市復興祈念公園）です。これらの活動を通じて、地域に対する深い眼差しを持ち、住民の方々にとっての豊かな日常を創造していくことに強く関心を持つことになりました。

現在は、①個々が主体的・能動的に生活環境を構築することが可能な環境を構築すること（DIY施工）、②土地特有の生活文化を起点に個性豊かな地域社会を構築すること（海際文化研究、ニュータウン研究）を目標に研究室の学生た

ちと一緒に取り組んでいます。

研究室では、学生が一方向的に教わる関係であることを脱却し、研究室を共に創り上げるメンバーとして、互いに新しい発見を分かち合える環境づくりを目指しています。また現場を大事にしているため、能登半島や東北沿岸部など各地域に赴き、そこで育まれている生活文化に触れることや想像を現実化することの楽しさ・困難さを知ることで深い知性と胆力を身に付けてもらいたいと考えています。2022年から新たに研究室が始動し、現在は大学院生4名、学部生14名と賑やかな日々の中、学生たちは各自の課題に向き合っています。成果の一部は2024年、2025年日本建築学会東北支部デザイン発表賞など学外でも評価を受けており、学生の活躍に頼もしさを感じます。

地域社会に限らず、大学生活など身の回りのことも含めて、豊かな日常を創造していくよう取り組んでまいります。



友瀨貴之研究室の学生たち



友瀨先生の教員紹介はこちら▲

絆

No.35

学生とともにつくる宮城大学生協

宮城大学生協同組合・専務理事 會澤 真澄

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。
今回は、学食や売店で日頃よりお世話になっている宮城大学生協同組合と、生協学生委員会のお二人にご協力いただき、事業および活動内容のご紹介と併せて、大学生活への想いを伝えていただきます。

には大学生協職員と一緒に悩みながら活動を進めています。大学生協は学生が関わることで、より身近で意味のある存在になっていきます。

ここからは、実際に活動している生協学生委員会の委員長から、普段の取り組みや想いについてご紹介します。

宮城大学生協同組合・

大和キャンパス学生委員会委員長 竹村 育穂

（事業構想学群地域創生学類2年）

私たちが大学生協の特徴は、単なるサービス提供にとどまらず、「学生の声」をもとに改善を重ねている点です。アンケートや日常の会話、大学生協が実施する企画への参加を通じて寄せられる声を受け止め、よりよい形へとつなげていくことが、大学生協の大切な役割だと考えています。その中心的な存在が、生協学生委員会です。生協学生委員会は宮城大学の学生で構成され、自らの悩みや不安を出発点に、より魅力ある大学生活を実現するために活動しています。学生の目線で企画を考え、大学生協の取り組みを仲間に伝え、とき

私たちが大学生協の特徴は、単なるサービス提供にとどまらず、「学生の声」をもとに改善を重ねている点です。アンケートや日常の会話、大学生協が実施する企画への参加を通じて寄せられる声を受け止め、よりよい形へとつなげていくことが、大学生協の大切な役割だと考えています。その中心的な存在が、生協学生委員会です。生協学生委員会は宮城大学の学生で構成され、自らの悩みや不安を出発点に、より魅力ある大学生活を実現するために活動しています。学生の目線で企画を考え、大学生協の取り組みを仲間に伝え、とき

生協学生委員会は、組合員の一人としての自覚を持ち、組合員一人ひとりの想いを大切にしながら活動しています。学生委員は学生の最も身近な理解者であり、学生の声や想いに寄り添った取り組みを行うことができます。例えば、暑い夏には「少しでも涼しく過ごしたい」という想いから、学生や教職員の皆さんにかき氷を配布しています。また、新学期には、入学前の不安を和らげ、大学生活への期待を膨らませてもらうことを目的に、オンラインキャンパスでの展示、新入生向け雑誌「GET READY」作成、合格者説明会、新入生交流企画「MYUスタァトパーティ」などを実施しています。

私たちの大学生活は、誰かに用意されるものではなく、私たち自身の手でより良いものへと創り上げていくことができます。その原動力となる「想い」を持っているのは、組合員である学生の皆さん一人ひとりで、これからは、学生の想いを大切にしながら、共により良い大学生活を創っていきたくと考えています。



生協学生委員会が大和キャンパスで開催した企画の様子です。実施当日は列ができるほど、多くの方にご参加いただきました。



生協学生委員会主催のオンライン合格者説明会の様子です。生協学生委員が学群ごとに分かれ、これから入学する方と個別に交流し、大学生活に関する質問に答えました。

国スポ出場のご報告 -宮城女子ラグビークラブDianate-

事業構想学群1年 柴田礼雪

後援会の皆様、こんにちは。宮城県的女子ラグビークラブチーム「Dianate」に所属しております事業構想学群一年柴田礼雪です。

この度、滋賀県で開催されました「わたSHIGA輝く国民スポーツ大会2025」に、女子ラグビー競技の宮城県代表として出場いたしました。

宮城県初の全国の舞台は決して甘いものではなく、結果は予選敗退となりましたが、一人ひとりが自分の役割を全うし、チームのために体を張り続ける時間は、貴重な経験となりました。

皆様は、女子ラグビーという競技にどのようなイメージをお持ちでしょうか。ラグビーには「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という有名な精神があります。それは単なる美談ではなく、激しいコンタクトの中で仲間を信じて体を投げ出し、痛みを耐えて立ち上がる、非常に泥臭くひたむきな姿勢の連続です。女子



ラグビーは競技環境や認知度の面で、まだ恵まれているとは言えません。それでも、一本のパスに思いを込め、最後まで走り抜く選手たちの熱量は、何事にも代えがたいものがあります。

これまで私の活動について直接お伝えする機会は少なかったのですが、今回の滋賀での経験を機に、一人でも多くの方に女子ラグビーという競技の存在を知っていただければ幸いです。

私たちはこれからも、宮城の地で地道に練習を積み重ねてまいります。少しでも興味を持っていただけたら、FacebookやInstagramで宮城女子ラグビークラブDianateと検索していただけると嬉しいです。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



インスタフォロー
お願いします。



後援会からの報告

学生・大学支援事業 ～学食メニュー全品半額デー～

令和7年度も、5月と12月(大和キャンパスは1月)に「学食メニュー全品半額デー」を開催しました。

「学生の経済的負担を軽減し、学食の賑わいを取り戻し、定食やメニューを通じてバランスの良い食事をしてほしい」—そんな願いを込めて始めたこの取り組みも、今年で4年目を迎えます。

物価上昇に伴い学食の価格も上がっている昨今ですが、普段は我慢しているメニューを美味しく、そして、楽しそうに食べる学生たちの姿を見ると、まだまだ支援を続ける必要があると感じています。

会員の皆様で、食品などをご提供いただける方がいらっしやいましたら、ぜひ後援会までお知らせください。



学生の努力を応援する 奨励・報奨制度

後援会では、設立当初より、学生が自己研鑽や留学に必要な英語スキル、また就職先企業から求められる資格など、実社会で役立つ資格の取得を奨励してきており、一定の努力を経て資格を取得した学生には、奨励金を支給しています。

さらに、課外活動において大会で優秀な成績を修めた場合や、人命救助などの慈善行為が認められた場合には、学生個人や学生団体に報奨金を授与してきました。^{*1}

令和3年度からは、対象となる英語資格の種類を拡充し、令和4年度からは資格区分を13に増やし、計33種類の資格に対して、5,000円～30,000円の範囲で奨励金を支給する規程に改定しました。改定後は、毎年およそ20名程の学生に奨励金を支給しています。

この制度は、学生の努力や挑戦を後押しするために設けられています。資格取得や大会での活躍、社会に貢献する行動は、将来の大きな力となります。ぜひ学生には積極的にこの制度を活用し、可能性をさらに広げてほしいと考えております。

^{*1} 支給対象は会員の学生であり、規程に定められてことに限る。

「スポーツで輝いている学生」で紹介した柴田礼雪さんに奨励金を支給いたしました。



令和8年度 MYU キャンパスカレンダー (予定)

4月

入学式(3日)
前期授業開始
新入生コンボケーションデー
後援会総会



5月

開学記念日(1日)



6月

MYUサポーターズデイ



7月

オープンキャンパス(高校生)



8月

定期試験
学生夏季休業



9月

学位記授与式(9月卒業の方)
後期授業開始

大学からのお知らせ

令和7年度 宮城大学学位記授与式

令和7年度宮城大学学位記授与式は、以下の日時で開催いたします。当日の式典の様子は、インターネットでライブ配信いたします。

また、卒業生1人につき御家族2人まで入場できます。(事前連絡は不要)

席に限りがございますので、状況によっては受付できない場合がございます。あらかじめご了承願います。

詳細は、卒業生宛てに学内メールにてお知らせしております。

開催日程

- 日時：令和8年3月19日(木)
- 場所：宮城大学大和キャンパス講堂

大学ではSNSでも情報を発信してます
フォロー・いいね お願いします!



Instagram



X(Twitter)



YouTube

編集後記



下半期は、全国的に話題になった「クマ」の出没で、後援会の事業にも少し影響がありました。記事集めもなかなか大変でしたが、生協・教職員・学生など、いつも協力してくださる皆さんのおかげで、今回も「うま🐻く」まとめることができました。

過去の会報誌はこちらから <http://www.myu.ac.jp/campus/support/>

後援会からのお知らせ

令和8年度 総会のご案内

令和8年度後援会総会を開催いたします。議題は令和7年度事業と決算の報告と令和8年度事業計画・予算案などです。総会案内文を同封しておりますので日時・会場等ご確認の上、ぜひ、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

役員の募集

後援会では、令和8年度に在籍する学生の父母・保証人の皆様の中から、学生・大学・会員のために後援会運営に携わってくださる方を募集しています。

後援会活動を支える大切な役割です。ぜひ、皆様のお力をお貸しください。

ご興味のある方は、後援会事務局までお気軽にご連絡ください。

後援会事務局 022(377)8381 myu_kouenkai@myu.ac.jp

終身会員制度のご案内

後援会では、学生の卒業後も学生と大学を支える「終身会員制度」を設けています。

この制度は、卒業生の父母・保証人の皆様が物心両面から支える活動に賛同いただき、希望によりご加入いただくものです。これまで多くの方々に入会いただいております。

ご加入後は、20年間にわたり「会報による後援会活動の報告」「サポーターズデイや講演会のご案内」「終身会員限定イベントのご案内」を差し上げます。

令和7年度にご卒業された学生の父母・保証人の皆様には、改めてご案内いたします。ぜひ、この機会にご加入をご検討ください。

令和8年度 主催事業のご紹介

後援会では、会員の皆さまを対象とした二つの主催事業を実施しております。

一つ目は、ご家族向けイベント「MYUサポーターズデイ」です。キャンパス内の見学をはじめ、学年ごとの学修内容やキャリア支援の取り組みについて、教員との懇談を通じて情報提供を行っております。学生の学びや成長をより身近に感じていただける機会となっております。

二つ目は、文化的な貢献を目的とした「講演会」です。ご活躍されている著名な方をお招きし、幅広いテーマでご講演いただいております。

いずれの事業も、開催日時が決まり次第、改めてご案内いたします。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

なお、令和7年度に開催予定であった竹田恒泰講演会につきましては、会場周辺(敷地内および近隣地域)において「クマ」の出没が確認されたため、安全を最優先に考慮し中止いたしました。

お問い合わせ先	大和キャンパス (看護・事業構想)	太白キャンパス (食産業)
教務関係【カリキュラム・シラバス等】	kyoumu@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
学生生活関係	gakusei@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
キャリア開発室【就職関係】	careerdev@myu.ac.jp	f-career@myu.ac.jp
後援会事務局	myu_kouenkai@myu.ac.jp	

お問い合わせの際は、学生の「お名前」「所属学群」「学籍番号」もあわせてお知らせください。

